



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



まだ暑い日が続きますが、暑さの中にどこか涼しさを感じ、秋の訪れを感じる季節になりましたね。今年もあと少しですが、令和元年、やり残していることはないでしょうか。本を読みながら、改めて自分を振り返る、そんな時間も必要だと思います。さて、今月もサポーターズおすすめの一冊をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～

『阪急電車』

有川 浩 著 (913.6 || A71)



この物語の舞台となるのは阪急電鉄の路線である今津線。阪急今津線は、「宝塚駅」から「西宮北口駅」を結ぶ片道 15 分の路線です。この本は、章ごとに主人公が変わっていく連作短編集となっており、章ごとのタイトルが駅名になっているのが特徴です。「宝塚駅」というタイトルから始まり、路線図通りに進んでいきます。「西宮北口駅」まで行くと折り返しとなり、再び「宝塚駅」まで戻ります。この往復 16 駅の中、それぞれの章に登場する主人公の物語を読んでいて感じるのは、人はいろいろな悩みを抱えて生きているのだということです。そして、知らないうちに誰かに支えられているのではないかも感じました。内容も重くなく、とても読みやすい本です。 (K・N)

『ぼくの鳥ちゃん』

江國 香織 著 (913.6 || E44)



とある冬の日、『ぼく』の元へ突然やってきた『鳥ちゃん』。

この鳥ちゃんはただの小鳥ではありません。クッションに布団を掛けてその中で眠り、プレンデルのピアノを聴くことが大好き。

鳥かごは使わないし、口は達者で、彼女曰く「世界中で一番いい味のものはラム酒をかけたアイスクリーム！

そんな鳥ちゃんとぼくの綴る日常は、どこか不思議でほっこりと癒されます。

『ぼく』、『鳥ちゃん』、『ぼくの彼女』。どの視点からでも読むことができるので、是非繰り返し読んでみて下さい。

異なる視点から捉えて読むと、さらに楽しむことができおすすめです。

(A・T)

『島はぼくらと』

辻村 深月 著 (913.6 || Ts44)



この本は、「牙島」という離島で育った四人の高校生たちと、その島で暮らす人々の物語です。

島での何気ない日常の中で、四人の周りで起こる様々な出来事。そして、ターナーの抱える揺らぎ、島に住んでいる人と、やってきた人との亀裂、島のやり方にとられる大人たち、卒業後、島を出るか島に残るかななどの問題が四人の視点で進みます。

まるで、実在する島のドキュメンタリーのような現実的な問題が描かれつつも、高校生たちの友情、恋愛、家族愛などの青春のきらめきも合わさった作品です。また、地元と外と、そして人と人をつなぐ、地域活性デザイナーという仕事もこの作品のみどころの一つです。

四人と島の人々が何を思い、考えて、その道を選んだのか、是非読んで確かめてください。

(A・O)

*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。

